

授業科目	作業療法基礎演習 I	科目担当者	高内 志保
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	<p>作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。</p> <p>この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」を関連付けて、専門知識へと繋がるよう国家試験で問われるポイントを押さえながらグループワークを行う。單元ごとに小テストを実施し理解度を確保する</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。</p> <p>②「解剖学Ⅰ」「運動学Ⅰ」に関連する内容について学習し、理解を深めることができる。</p> <p>③学習方法をみつけることができる。</p>		

授業計画	内 容
第 1 回	細胞 (演習)
第 2 回	骨① (演習)
第 3 回	骨② (演習)
第 4 回	骨③ (演習)
第 5 回	関節① (演習)
第 6 回	関節② (演習)
第 7 回	関節③ (演習)
第 8 回	筋① (演習)
第 9 回	筋② (演習)
第 10 回	筋③ (演習)
第 11 回	筋④ (演習)
第 12 回	筋⑤ (演習)
第 13 回	循環器① (演習)
第 14 回	循環器② (演習)
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト 90% 課題 10%
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう
事後学習	單元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	医療情報科学研究所 編：「からだが見える」メディックメディア
オフィスアワー	水曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	「解剖学Ⅰ」「運動学Ⅰ」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅱ	科目担当者	油田 あゆみ
学年	1年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>作業療法士として、人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。</p> <p>この科目では、専門基礎分野で学ぶ「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」を関連付けて、専門知識へと繋がるよう国家試験で問われるポイントを押さえながらグループワークを行う。單元ごとに小テストを実施し理解度を確認する</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①医学用語や常用漢字についての意味を理解し、説明ができる。</p> <p>②「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」について学習し、理解を深めることができる。</p> <p>③学習方法をみつけることができる。</p>		

授業計画	内 容
第1回	感覚器① (演習)
第2回	感覚器② (演習)
第3回	呼吸器① (演習)
第4回	呼吸器② (演習)
第5回	消化器① (演習)
第6回	消化器② (演習)
第7回	腎と泌尿器 (演習)
第8回	中枢神経系① (演習)
第9回	中枢神経系② (演習)
第10回	中枢神経系③ (演習)
第11回	中枢神経系④ (演習)
第12回	末梢神経系① (演習)
第13回	末梢神経系② (演習)
第14回	末梢神経系③ (演習)
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト 90% 課題 10%
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう
事後学習	單元ごとに小テストを行いそれが成績になりますので、授業ごとに復習をおこなっておきましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	医療情報科学研究所 編：「からだが見える」メディックメディア
オフィスアワー	木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅱ」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅲ	科目担当者	岩本 凌
学年	2年	学期/時間数	前期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	作業療法士として人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、1年次に学修した生理学・運動学や作業療法基礎演習Ⅰ・Ⅱで学修した内容を発展させ、国家試験問題に準じた学習に取り組む。グループワークを通して基礎知識を再確認し、さらに深化させていく。理解度を確認するために小テストを実施する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 生理学、運動学の基本的な知識が定着できる。 ② グループワークを通じ、他者に説明ができる。 ③ 学習方法を身につけることができる。		

授業計画	内 容
第1回	生理学 — 総論・筋
第2回	生理学 — 神経・運動
第3回	生理学 — 自律神経・呼吸
第4回	生理学 — 循環・血液, 免疫
第5回	生理学 — 咀嚼, 嚥下・排便
第6回	生理学 — 腎, 排尿・内分泌
第7回	生理学 — 体温調節・生殖
第8回	運動学 — 総論
第9回	運動学 — 四肢と体幹の運動
第10回	運動学 — 動作解析
第11回	運動学 — 姿勢
第12回	運動学 — 歩行
第13回	運動学 — 運動制御
第14回	運動学 — 運動学習
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題10%、小テスト90%
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう。
事後学習	取り組んだ課題内容を復習し理解を深めてください。小テストで理解度を確認してみましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	
オフィスアワー	水曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス: iwamoto@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	「生理学」「運動学」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法基礎演習Ⅳ	科目担当者	後藤 一樹
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>作業療法士として人体の形態的特徴や構造、およびその機能や働きを理解することは必須である。この科目では、1年次に学習した「解剖学」や「作業療法基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容を発展させ、国家試験問題に準じた内容に取り組む。グループワークを通して基礎知識を再確認し、さらに深化させていく。理解度を確認するために小テストを実施する。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>① 解剖学の基本的な知識が定着できる。 ② グループワークを通じ、他者に説明ができる。 ③ 学習方法を身につけることができる。</p>		

授業計画	内 容
第1回	解剖学 - 総論・骨格系①（上肢、頸部・体幹）
第2回	解剖学 - 総論・骨格系②（下肢/股関節、足根骨）
第3回	解剖学 - 筋系①（上肢の筋）
第4回	解剖学 - 筋系②（下肢の筋）
第5回	解剖学 - 神経系①（中枢神経）
第6回	解剖学 - 神経系②（末梢神経）
第7回	解剖学 - 脈管系①（心臓）
第8回	解剖学 - 脈管系②（動脈系、静脈系、リンパ系）
第9回	解剖学 - 内臓諸器官①（呼吸器、消化器）
第10回	解剖学 - 内臓諸器官②（泌尿器・生殖器、内分泌腺）
第11回	解剖学 - 感覚器①（皮膚の構造・感覚受容器）
第12回	解剖学 - 感覚器②（視覚器・平衡聴覚器）
第13回	解剖学 - 体表解剖
第14回	解剖学 - 組織
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題 10%、小テスト 90%
準備学習	資料に関連する教科書を準備し熟読しておきましょう。
事後学習	取り組んだ課題内容を復習し理解を深めてください。小テストで理解度を確認してみましょう。
教科書	適宜、資料を配布する。資料に関連する教科書を準備すること
参考書	
オフィスアワー	金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	「解剖学」で学んでいる内容について、演習を通して知識の定着を促す。

授業科目	作業療法総合演習	科目担当者	油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹 高内志保
学年	3年	学期/時間数	後期 / 90時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	3単位
授業の概要と方法	今まで学んできた知識を整理し、国家試験問題の解説ができるように、グループ学習を行う。また、グループ担当教員と連携をとり、学習状況を共有する。		
	実力テストや模擬試験などの筆記試験を実施し、学習の理解度や苦手な点を明らかにし、国家試験合格を目指す。 アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①専門基礎科目の知識を理解し、説明できる。 ②専門科目の知識を理解し、説明できる。 ③国家試験に合格しうる知識を身につける。		

授業計画	内 容				
第1回	国家試験対策講座	第16回	リハ医学	第31回	作業療法評価学・心身機能
第2回	学習方法について	第17回	臨床心理学	第32回	作業療法評価学・活動参加
第3回	解剖学 総論・骨格系	第18回	精神障害と臨床医学	第33回	作業療法評価学・疾患障害
第4回	解剖学 筋系・神経系	第19回	まとめ③	第34回	まとめ⑥
第5回	解剖学 脈管系・内臓器官	第20回	骨関節障害と臨床医学	第35回	作業療法治療学の基礎
第6回	解剖学 感覚・体表解剖	第21回	中枢神経障害と臨床医学	第36回	高次脳機能障害のOT
第7回	まとめ①	第22回	末梢神経・筋障害と臨床医学	第37回	骨関節障害のOT
第8回	生理学 筋・神経・運動	第23回	内部障害と臨床医学	第38回	中枢神経障害のOT
第9回	生理学 呼吸・循環・消化	第24回	老年期・小児の障害	第39回	神経筋障害のOT
第10回	生理学 内分泌・代謝	第25回	まとめ④	第40回	発達障害・内部障害のOT
第11回	運動学 上肢・下肢・体幹	第26回	基礎作業療法学	第41回	まとめ⑦
第12回	運動学 姿勢・歩行	第27回	作業療法管理学	第42回	精神・心理障害のOT
第13回	人間発達学	第28回	地域作業療法学	第43回	精神・心理障害のOT
第14回	まとめ②	第29回	義肢・装具・支援機器	第44回	認知症
第15回	病理学・臨床医学概論	第30回	まとめ⑤	第45回	まとめ⑧
成績評価の方法 [評価項目と割合]	実力テスト・模擬試験(筆記) 100%				
準備学習	国家試験対策スケジュールを確認し、翌日の学習範囲について予習する。				
事後学習	学内での学習内容を復習する(自宅課題あり)				
教科書	医歯薬出版編:「理学療法士・作業療法士国家試験必須ポイント専門基礎分野 基礎医学」、「臨床医学」、「基礎OT」、 「障害別OT治療学」医歯薬出版 医療情報科学研究所編:「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説 共通問題」、「専門問題」メディックメディア				
参考書	1年次、2年次までの全ての科目で用いた教科書・配布資料				
オフィスアワー	油田 木曜日の12:10~12:45、職員室 メールアドレス:yuda@tohaya.ac.jp 高内 水曜日の12:10~12:45、職員室 メールアドレス:takauchi@tohaya.ac.jp				
教員の実務経験	作業療法士				
実務経験を活かした 教育内容	国家試験合格に必要な基礎科目ならびに専門科目に関する知識と技能をこれまでの講義を総括しながら学修する。				

授業科目	臨床実習指導 I	科目担当者	油田 あゆみ
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	<p>臨床見学実習にむけて、職業人としての常識的行動や責任ある行動および、対象者やスタッフへの適切な対応と望ましい人間関係を学び、施設における作業療法士の役割について理解する。また臨床見学実習では、コミュニケーション中心の介入となるため、コミュニケーションスキルについても理解する。これらはレポートおよび小テストを適宜実施することで理解度の確認をする。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>① 見学実習の心得と、求められる課題を理解できる。 ② 職業人・医療人としての常識的行動・態度を理解できる。 ③ 見学実習に行くための知識・技能を身につける。</p>		

授業計画	内 容
第 1 回	臨床見学実習の概要：オリエンテーション
第 2 回	職業人としての常識的行動・態度（身だしなみ/接遇）、作業療法士の倫理（守秘義務/礼節/個人情報保護）
第 3 回	実習施設の概要（調べ方と演習）、実習施設の機能と役割
第 4 回	実習施設における作業療法士の役割について、報告連絡相談の方法、
第 5 回	リスク管理（標準予防策：手洗いマスクの付け方）、転倒予防 実技演習
第 6 回	まとめ（リスク管理、転倒予防）
第 7 回	見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション 実技演習
第 8 回	まとめ（見学時のマナー、自己紹介、コミュニケーション）
第 9 回	介助方法①（車いすの部位名称と機能） 実技演習
第 10 回	介助方法②（車いすの移乗介助） 実技演習
第 11 回	まとめ（車いすの部位名称と機能、移乗介助）
第 12 回	見学実習での学習目標について、見学実習録の作成・確認
第 13 回	実習生プロフィール作成① 自己紹介および自己アピールの作成
第 14 回	実習生プロフィール作成② 実習目標の作成および実習施設の情報収集
第 15 回	見学実習における電話対応、必要書類（実習記録、報告書、礼状を含む）の説明と作成方法
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト 30%、レポート 70%
準備学習	見学実習の内容について、臨床見学実習録を用いて復習しておくこと。
事後学習	必要に応じて資料を確認して復習すること。
教科書	実習録 他、必要に応じ適宜プリントを配布していく。
参考書	
オフィスアワー	木曜日の 12：10～13：00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行い、知識・技能の定着を図ります。

授業科目	臨床実習指導Ⅱ	科目担当者	後藤 一樹
学年	2年	学期/時間数	前期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>身体領域疾患として脳血管疾患を模擬事例に取り上げ、その症状に合わせた評価計画を立案する。</p> <p>脳血管疾患の症状の評価結果から臨床推論を学ぶ。</p> <p>脳血管疾患の症状・障害に対するICFを使用して全体像把握までの一連の流れを学ぶ。</p> <p>生活行為向上マネジメントを学び、生活行為を支援する方法や内容を理解する。</p> <p>文献および論文を読み、記載されている内容を理解する。</p> <p>文献および論文をグループでまとめ、報告会で発表する。</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/>プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/>その他()</p>		
到達目標	<p>①作業療法における「初期評価から問題点の焦点化まで」の一連の流れを理解できる。</p> <p>②得られた情報や作業療法評価結果を報告書に記載できる。</p> <p>③得られた情報や作業療法評価から全体像を捉えることができる。</p> <p>④生活行為を支援する作業療法の思考過程を理解できる。</p> <p>⑤文献および論文から、作業療法の目的や意義を学び理解できる。</p> <p>⑥理解した内容をまとめ、発表することができる。</p>		

授業計画	内 容
第1回	生活行為向上マネジメント オリエンテーション①地域包括ケアシステム/作業と生活行為について
第2回	生活行為向上マネジメント 概要
第3回	生活行為向上マネジメント 使用方法
第4回	生活行為向上マネジメント 演習
第5回	生活行為向上マネジメントに関する文献および論文抄読 (オリエンテーション)
第6回	生活行為向上マネジメントに関する文献および論文抄読 (グループディスカッション①文献検索)
第7回	生活行為向上マネジメントに関する文献および論文抄読 (グループディスカッション②文献まとめ)
第8回	生活行為向上マネジメントに関する文献および論文抄読 (グループディスカッション③発表準備)
第9回	文献および論文報告会
第10回	模擬事例 脳血管疾患に対する臨床推論 回復期 (事例提示)
第11回	脳血管疾患に対する臨床推論 回復期 (疾患の基礎知識)
第12回	脳血管疾患に対する臨床推論 回復期 (評価項目の列挙)
第13回	脳血管疾患に対する臨床推論 回復期 (評価結果の解釈)
第14回	脳血管疾患に対する臨床推論 回復期 (ICF)
第15回	脳血管疾患に対する臨床推論 回復期 (全体像の把握)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	レポート 60%、報告会 40%
準備学習	様々な領域において必要になる知識・技術である。関連講義の復習をしておくこと。
事後学習	必要に応じて資料を確認し復習すること。
教科書	九州作業療法士学校連絡協議会 編：「事例研究報告書作成指針 (ICFモデル) 2005」 日本作業療法士協会編集：「作業療法マニュアル 75 生活行為向上マネジメント改訂第4版」
参考書	必要に応じて提示する。
オフィスアワー	金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行う。臨床経験をもとに指導を実施する。

授業科目	臨床実習指導Ⅲ	科目担当者	高内志保 宮尾京介 岩本凌
学年	2年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	<p>地域作業療法実習の事前学習として、「在宅支援サービス事業所（通所リハ・訪問リハ）」の概要、「地域作業療法の役割とプロセス」について理解する。実践を意識した実技演習を繰り返し、評価技術を身につける。評価技術は各小テストを実施し評価する。多職種との連携を行い、作業療法だけでなく多職種からの視点を含めた治療・指導・援助の方法を理解する。適宜レポートのフィードバックを行い、事例に関するまとめを行う。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①臨床実習に参加するための接遇・態度や記録・管理について理解できる。 ②通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションの概要、作業療法士の役割を理解できる。 ③評価の意義と目的について説明できる。 ④実際の対象者を想定し、各検査測定を説明・実施できる。 ⑤多職種の特徴や役割について理解できる。 ⑥各専門職でのチーム医療について理解できる。</p>		

授業計画	内 容	
第1回	地域実習オリエンテーション、個人情報保護等 宮尾	第16回 実習生プロフィール作成 宮尾
第2回	通所および訪問リハの概要と役割 宮尾	第17回 地域実習録の説明と作成方法 宮尾
第3回	地域実習での学習目標と実習施設の概要 宮尾	第18回 フィードバック（最終確認事項含む） 宮尾
第4回	物理療法について 岩本	第19回 専門職連携事前演習（事例提示） 岩本
第5回	作業療法評価法演習（標準感染予防策） 高内	第20回 専門職連携事前演習（アセスメント） 岩本
第6回	作業療法評価法演習（バイタル測定） 高内	第21回 専門職連携事前演習（ICF） 岩本
第7回	作業療法評価法演習（コミュニケーション技法） 高内	第22回 専門職連携事前演習（全体像の把握） 岩本
第8回	演習まとめ（バイタル・感染・コミュ） 高内	第23回 専門職連携（オリエンテーション） 岩本
第9回	作業療法評価法演習（ROM測定） 岩本	第24回 専門職連携（模擬カンファレンス） 岩本
第10回	作業療法評価法演習（MMT） 岩本	第25回 専門職連携（各専門職の特徴） 岩本
第11回	演習まとめ（ROM測定・MMT） 岩本	第26回 専門職連携（各専門職の役割） 岩本
第12回	作業療法評価法演習（フリストロームステージ） 岩本	第27回 専門職連携（グループ発表①） 宮尾
第13回	演習まとめ（フリストロームステージ） 岩本	第28回 専門職連携（グループ発表②） 岩本
第14回	作業療法評価法演習（FIM） 高内	第29回 特別講義：評価について 岩本
第15回	演習まとめ（FIM） 高内	第30回 特別講義：実習に向けて 岩本
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト50%、レポート50%	
準備学習	様々な領域において必要になる知識・技能である。関連講義の資料を復習しておくこと。	
事後学習	配布資料から復習しておくこと	
教科書	能登 真一・山口 昇 他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院 その他資料配布	
参考書	必要に応じて提示する。	
オフィスアワー	宮尾：木曜日の12:30～13:00、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp	
教員の実務経験	作業療法士	
実務経験を活かした 教育内容	実際の対象者を想定しながら演習を行う。教員の臨床経験をもとに指導を実施する。	

授業科目	臨床実習指導Ⅳ	科目担当者	油田あゆみ 宮尾京介 岩本 凌 上原佳代 後藤一樹 高内志保
学年	3年	学期/時間数	前期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	① 評価実習および総合臨床実習前後のオリエンテーション、事前学習を行う。 ② 実習経験をレジュメにまとめ、実習終了後に振り返りを実施する。 ③ 実習経験の集大成として、総合臨床実習終了後にポスター発表を行う。 ①～③について、教員が各学生を担当し、指導する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 臨床実習に必要な心構えを学び、臨床実習に向けた準備ができる。 ② 臨床実習の事前学習として、各領域で必要となる基礎知識と技能を修得する。 ③ 評価実習・総合臨床実習の経験を報告することができる。 ④ 発表テーマに沿った先行研究・参考文献等を探し、根拠に基づく作業療法を意識したポスター発表ができる。		

授業計画	内 容		
第1回	評価実習 オリエンテーション	第16回	ポスター発表 オリエンテーション
第2回	評価実習 事前学習 (疾患の特徴)	第17回	ポスター発表 抄録作成
第3回	評価実習 事前学習 (評価技能)	第18回	ポスター発表 抄録作成
第4回	評価実習 振り返り準備	第19回	ポスター発表 抄録作成
第5回	評価実習 振り返り	第20回	ポスター発表 抄録作成
第6回	総合臨床実習1 オリエンテーション	第21回	ポスター発表 抄録作成
第7回	総合臨床実習1 事前学習 (疾患の特徴)	第22回	ポスター発表 抄録作成
第8回	総合臨床実習1 事前学習 (評価技能)	第23回	ポスター発表 ポスター作成
第9回	総合臨床実習1 事前学習 (疾患別 OT)	第24回	ポスター発表 ポスター作成
第10回	総合臨床実習1 情報交換会	第25回	ポスター発表 ポスター作成
第11回	総合臨床実習1 情報交換会	第26回	ポスター発表 ポスター作成
第12回	総合臨床実習2 オリエンテーション	第27回	ポスター発表 ポスター作成
第13回	総合臨床実習2 事前学習 (疾患の特徴)	第28回	ポスター発表 発表準備
第14回	総合臨床実習2 事前学習 (評価技能)	第29回	ポスター発表 発表会
第15回	総合臨床実習2 事前学習 (疾患別 OT)	第30回	ポスター発表 発表会
成績評価の方法 [評価項目と割合]	ポスター発表および内容 40%、抄録提出および内容 30%、課題提出および内容 30%		
準備学習	報告会・ポスター発表では抄録フォーマットやポスター発表の作成要領を確認してください。		
事後学習	報告会やポスター発表会時にアドバイスや指摘を受けた内容について、振り返りを行いましょう。		
教科書	臨床実習録 (【第1回 評価実習 オリエンテーション】時に配布) ポスター発表 作成要領およびアウトライン (【第19回 ポスター発表 オリエンテーション】時に配布)		
参考書			
オフィスアワー	油田 木曜日の12:10~12:45、職員室 メールアドレス: yuda@tohaya.ac.jp 高内 水曜日の12:10~12:45、職員室 メールアドレス: takauchi@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	各教員の専門領域における知識と経験をもとに、臨床実習に必要な知識・技能の修得に向けた学修支援を行う。 また、報告会やポスター発表会では抄録作成の方法や文献検索などを教授する。		

授業科目	作業療法評価法総論	科目担当者	上原 佳代・宮尾 京介
学年	1年	学期/時間数	前期 / 30時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	作業療法評価の目的や意義、そして評価を実施するうえで必要とされる態度や知識について学習する。 また、作業療法が提供されるまでの一連の過程について学習する。 各評価の学習理解度を確認するため、小テストを実施する。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①作業療法評価の意味・必要性を理解し、説明することができる。 ②作業療法が提供されるまでの過程を理解することができる。 ③作業療法における主要な評価を理解し、説明することができる。		

授業計画	内 容	
第1回	評価の意味と目的	宮尾
第2回	評価の時期と流れ	宮尾
第3回	評価の記録方法	宮尾
第4回	行動評価と面接評価 (COPM)	宮尾
第5回	ランドマーク・触診 (触診の方法)	宮尾
第6回	ランドマーク・触診 (顔・頸部体幹・上肢)	宮尾
第7回	ランドマーク・触診 (下肢)	宮尾
第8回	形態測定 (意義と目的)	宮尾
第9回	形態測定 (四肢長と周径)	宮尾
第10回	関節可動域 (ROM) 測定 概論	上原
第11回	関節可動域 (ROM) 測定 上肢	上原
第12回	関節可動域 (ROM) 測定 下肢	上原
第13回	関節可動域 (ROM) 測定 肩甲骨・頸部・体幹	上原
第14回	上肢機能検査 (STEF)	上原
第15回	まとめ	上原
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト 40%、定期試験 (筆記) 60%	
準備学習	本講義では骨や筋などの人体構造を理解しておく必要があります。 解剖学や運動学の教科書で予習・復習しておきましょう。	
事後学習	各授業もしくは、まとめ (第15回) で示す重要ポイントを復習しておいてください。	
教科書	能登真一 他 著:「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院	
参考書	その他専門書及び文献 (随時紹介)	
オフィスアワー	宮尾 木曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: miyao@tohaya.ac.jp 上原 火曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: uehara@tohaya.ac.jp	
教員の実務経験	各教員が各々の専門領域 (身体障害、高齢期障害、地域など) で十分な臨床経験を有している。	
実務経験を活かした 教育内容	各教員の臨床経験をもとに、根拠に基づく作業療法を提供するための基礎となる評価の意義や目的、更には主要な評価方法について講義する。	

授業科目	作業療法基礎評価法	科目担当者	上原 佳代
学年	1年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>身体障害領域において疾患・障害を問わず行われる、共通の基礎的な評価について学ぶ。 基礎技法について、デモンストレーションを行い、ディスカッションしながら理解を進めていく。 実技を繰り返し行い、必要な基礎的手技を身につける。</p> <p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(実技演習)</p>		
到達目標	<p>①基礎的な評価の意義と目的を述べることができる。 ②基礎的な評価を列挙し、その測定法について説明することができる。 ③基礎的な評価に必要な物品や環境を設定できる。 ④基礎的な評価を実施できる。</p>		

授業計画	内 容
第1回	評価技法 徒手筋力検査法 総論
第2回	評価技法 徒手筋力検査法 肩甲帯 (実技演習)
第3回	評価技法 徒手筋力検査法 上肢 (実技演習)
第4回	評価技法 徒手筋力検査法 手指 (実技演習)
第5回	評価技法 徒手筋力検査法 下肢 (実技演習)
第6回	評価技法 徒手筋力検査法 体幹・頸部 (実技演習)
第7回	評価技法 徒手筋力検査法 まとめ (実技演習)
第8回	評価技法 感覚検査 総論
第9回	評価技法 感覚検査 各種検査 (実技演習)
第10回	評価技法 筋緊張検査 (実技演習)
第11回	評価技法 反射検査 (実技演習)
第12回	評価技法 バランス検査 (実技演習)
第13回	評価技法 協調性検査 (実技演習)
第14回	評価技法 脳神経検査 (実技演習)
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験(筆記:60%、実技:20%)、課題・小テスト20%
準備学習	与えられた課題に関しては予習をし、講義に臨んでください。
事後学習	実技演習した内容は学生同士で必ず復習し、その都度理解していきましょう。
教科書	能登 真一・他 編:「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院 津山 直一・中村 耕三 訳:「新・徒手筋力検査法 原著第10版」協同医書出版社
参考書	田崎 義昭・他 著:「ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版」南山堂 日本作業療法士協会 監修:「作業療法学全書改訂第3版第3巻 作業療法評価学」協同医書出版社
オフィスアワー	火曜日の12:10~13:00、教員室 メールアドレス uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業療法領域共通の基礎的な評価法について、実技を交えながら授業を行う。

授業科目	作業療法評価法身体領域	科目担当者	油田あゆみ・宮尾京介・岩本凌
学年	1年	学期/時間数	後期 / 45時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	身体領域疾患の症状・障害について理解する。その理解をもとに身体領域疾患の評価法について学ぶ。 身体領域疾患に対する評価の技術を身につける。 グループディスカッションを行い、評価法や評価技術に関する理解を深める。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①身体領域疾患の症状や障害に合わせた評価項目を列挙することができる。 ②身体領域疾患に必要な評価の意義と目的を述べる事が出来る。 ③評価の技術と測定結果から障害の程度を解釈することができる。		

授業計画	内 容		
第1回	総論 脳血管疾患の症状と障害について	第16回	整形疾患（下肢・体幹）の機能評価
第2回	脳血管疾患の評価①身体機能評価	第17回	呼吸器疾患の症状と障害、画像評価
第3回	脳血管疾患の評価②精神機能評価	第18回	呼吸器疾患の評価①フィンガertest (演習)
第4回	脳血管疾患の評価③ADL評価、画像評価 (演習)	第19回	呼吸器疾患の評価②機能評価 (演習)
第5回	脊髄損傷の症状と障害について	第20回	代謝性疾患の症状と障害の評価
第6回	脊髄損傷の評価①画像・身体機能評価 (演習)	第21回	関節リウマチの症状と障害の評価
第7回	脊髄損傷の評価②ADL・社会参加の評価 (演習)	第22回	神経筋疾患の症状と障害の評価
第8回	心疾患の症状と障害、画像評価	第23回	まとめ
第9回	心疾患の評価 (演習)		
第10回	パーキンソン病の症状と障害		
第11回	パーキンソン病の身体機能評価 (演習)	【担当】	
第12回	パーキンソン病の評価時の留意事項	岩本	第1回-第4回、第17回-第20回
第13回	整形疾患の症状と障害	油田	第5回-第9回、第21回
第14回	整形疾患の画像評価	宮尾	第10回-第16回、第22回、第23回
第15回	整形疾患（上肢）の機能評価 (演習)		
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題・小テスト 20%、定期試験（筆記） 80%		
準備学習	教科書、参考書を予習に利用し積極的に取り組んでおくこと		
事後学習	講義資料と教科書を復習しておくこと		
教科書	岩崎 テル子 編：「標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版」医学書院 能登 真一 他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第4版」医学書院		
参考書	医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経第2版」メディックメディア		
オフィスアワー	油田 木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp 宮尾 木曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 岩本 金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	作業療法士		
実務経験を活かした 教育内容	身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、身体領域を専門とした教員により、疾患別作業療法評価法について講義する。		

授業科目	作業療法評価法精神領域	科目担当者	後藤 一樹
学年	1年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	精神障害領域に必要な作業療法評価について学ぶ。対象者の生活像を包括的に評価し作業療法推論ができるように、理論やそれに基づいた構成的評価を学習していく。また、疾患に応じた精神状態も評価できるように観察視点や評価法を学んでいく。またこれらは、講義やグループワークを通じて臨床現場での実践の意識を高めていく。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 精神科作業療法で用いられる構成的、非構成的な評価を学習し説明できる。 ② 精神科領域に関連する作業療法評価の視点を学び、作業療法士の役割を考えられる。 ③ 精神科作業療法評価の実践能力に必要な知識を身に付けることができる。		

授業計画	内 容
第1回	精神科作業療法における評価、総論①精神科作業療法で活用できる作業療法理論
第2回	精神科作業療法における評価、総論②精神科作業療法で活用できる作業療法理論を用いた評価
第3回	精神科作業療法の構成的評価の実践 ACIS
第4回	精神科作業療法の構成的評価の実践 興味、役割
第5回	精神科作業療法の構成的評価の実践 OQ
第6回	精神科作業療法の構成的評価の実践 VQ
第7回	精神科作業療法の構成的評価の実践 OSA
第8回	精神科作業療法の構成的評価の実践 OSAの演習
第9回	精神科作業療法の構成的評価の実践 精神障害領域における作業機能障害について
第10回	精神科作業療法の構成的評価の実践 精神障害領域における作業機能障害の評価
第11回	精神科作業療法の構成的評価の実践 CMOP-E と COPM①評価の歴史と背景理論
第12回	精神科作業療法の構成的評価の実践 CMOP-E と COPM②評価法の実際
第13回	精神科作業療法の構成的評価の実践 生活機能の評価：LASMI、ISDA、Rehab
第14回	精神科作業療法の非構成的評価の実践 精神機能の評価：統合失調症と気分障害等の評価について
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	レポート 20% 定期試験(筆記) 80%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	早坂友成・他 編著：「精神科リハビリテーション評価法ハンドブック」 中外医学社
参考書	
オフィスアワー	金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	作業療法評価法発達領域	科目担当者	高内 志保
学年	1年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>作業療法を実践する上で基礎となる知識を学習する。 対象児の臨床像を把握し、治療を適切なものにするための評価の意義および、代表的発達検査を学ぶ。座学と、学生自身が理解したことをプレゼンテーションすることを課題とし専門用語などの知識を深める。 子どもの発達像をもっとも反映する『遊び』の意味を知り、子供の保育場面を実際に観察することで、発達過程を学んでゆく。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①典型的発達の過程を理解できる。 ②発達検査の意義と目的を説明できる。 ③発達検査の使用方法が分かる。 ④発達障害における作業療法の基礎的手段としてのあそびの意義と活用について理解することができる。</p>		

授業計画	内 容
第1回	発達障害概論
第2回	発達障害の作業療法の基礎となる知識
第3回	典型的発達指標 (演習: 姿勢反射・反応)
第4回	典型的発達指標 (演習: 運動発達)
第5回	典型的発達指標 (演習: 上肢機能の発達)
第6回	典型的発達指標(言語, 社会性の発達)
第7回	発達検査 (演習: スクリーニング検査、知能検査、ADL、疾患別)
第8回	子どもの発達とあそび
第9回	子どもの発達とあそび (演習)
第10回	評価としてのあそびの可能性
第11回	あそびの分析 (演習)
第12回	おもちゃと遊具 (演習)
第13回	幼稚園 (演習) ～ 子どもとあそび (年少・年中)
第14回	幼稚園 (演習) ～ 子どもとあそび (年長・フィードバック)
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記) 90%、課題 10%
準備学習	前回の講義内容を復習し、講義に臨みましょう。
事後学習	講義終了時に理解できなかったところは質問を行いその都度解決しておきましょう。
教科書	上杉 雅之 監修: 「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版 能登 真一・他 編: 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第4版」 医学書院
参考書	岩崎 清隆 著: 「発達障害の作業療法 基礎編 第2版」 および 同「実践編」 三輪書店
オフィスアワー	水曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス: takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	典型発達の基礎知識・発育相談の臨床経験をもとに、発達の個性を尊重する視点を育てる。

授業科目	動作分析学	科目担当者	岩本 凌
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	ヒトの動きに関する、正常動作の基礎知識を学び、動作分析について理解できる。 グループ毎に、各動作の動作分析を実施する。 動作分析した内容をレポートにまとめ、フィードバックを受ける。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①動作分析の方法（観察評価・三次元動作解析装置等）を理解できる。 ②動作分析に必要な知識・技術を身につけることができる。 ③正常動作パターンを理解し、評価することができる。 ④実際に動作分析を行い、結果の解釈ができる。		

授業計画	内 容
第1回	動作分析学 総論
第2回	姿勢と動作の関係性
第3回	姿勢分析①姿勢の評価について
第4回	姿勢分析②分析演習
第5回	基本動作の動作分析：寝返りについて
第6回	基本動作の動作分析：寝返りの分析演習
第7回	基本動作の動作分析：起き上がりについて
第8回	基本動作の動作分析：起き上がりの分析演習
第9回	基本動作の動作分析：起立について
第10回	基本動作の動作分析：起立の分析演習
第11回	基本動作の動作分析：着座について
第12回	基本動作の動作分析：着座の分析演習
第13回	基本動作の動作分析：歩行について
第14回	基本動作の動作分析：歩行の分析演習
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	レポート・小テスト20%、定期試験（筆記）80%
準備学習	運動学、解剖学を基に学習していく。講義前の復習をしておくこと。
事後学習	配布資料の復習をしておくこと。
教科書	石井 慎一郎 著：「動作分析 臨床活用講座」メジカルビュー社 その他、配布資料
参考書	中村 隆一・斉藤 宏 著：「基礎運動学第7版」医歯薬出版
オフィスアワー	金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	身体疾患を対象とした臨床経験から、正常から異常動作のパターンを分析できる観察力を修得できるように講義を行う。

授業科目	作業療法身体領域 I	科目担当者	宮尾 京介・油田 あゆみ
学年	2年	学期/時間数	前期 / 45 時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	作業療法の身体領域における代表的疾患について、病態や障害像を理解し、リスク管理に配慮した評価から作業療法プログラムを学ぶ。各疾患の概要から作業療法実施までの一連の流れを学んだ後、グループディスカッションを行い、理解を深める。施設見学ではリハビリテーションにおける作業療法の援助の実際を知る。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①疾患ごとの障害特性について説明できる ②疾患ごとの予後について説明できる ③疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践できる		

授業計画	内 容				
第 1 回	神経筋疾患 (PD) の概要	宮尾	第 16 回	関節リウマチの概要	油田
第 2 回	神経筋疾患 (PD) の評価	宮尾	第 17 回	関節リウマチの評価	油田
第 3 回	神経筋疾患 (PD) の生活障害	宮尾	第 18 回	関節リウマチの目標設定	油田
第 4 回	神経筋疾患 (PD) の生活支援	宮尾	第 19 回	関節リウマチのプログラム	油田
第 5 回	神経筋疾患 (PD) の OT	宮尾	第 20 回	心疾患の概要	油田
第 6 回	神経筋疾患 (ALS) 概要	宮尾	第 21 回	心疾患の評価	油田
第 7 回	神経筋疾患 (ALS) OT	宮尾	第 22 回	心疾患の目標設定とプログラム	油田
第 8 回	神経筋疾患 (その他の疾患)	宮尾	第 23 回	まとめ	油田
第 9 回	脊髄損傷の概要	油田			
第 10 回	脊髄損傷の評価/目標設定	油田			
第 11 回	脊髄損傷の急性期でのプログラム	油田	講義	第 1 回、第 3 回～第 7 回、第 8 回～第 13 回	
第 12 回	脊髄損傷の回復期でのプログラム	油田		第 16 回～第 18 回、第 20 回～第 23 回	
第 13 回	脊髄損傷の社会復帰期でのプログラム	油田	演習	第 2 回、第 7 回、第 10 回、第 13 回、第 14 回、	
第 14 回	脊髄損傷者の援助の実際 (施設見学)	油田		第 15 回、第 18 回、第 19 回	
第 15 回	脊髄損傷者の援助の実際 (施設見学)	油田			
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記) 90%、課題 10%				
準備学習	1 年生後期の作業療法評価法身体領域の内容を復習して臨みましょう				
事後学習	教科書や配布資料の内容を理解できるよう整理しておきましょう。				
教科書	矢谷 玲子 監修：「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第 4 版」 医学書院。 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる〈vol. 7〉脳・神経 第 2 版」 メディックメディア。				
参考書	能登 真一 編：「標準作業療法学 作業療法評価学 第 4 版」 医学書院				
オフィスアワー	宮尾 木曜日の 12:10～13:00、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp 油田 木曜日の 12:10～13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp				
教員の実務経験	作業療法士				
実務経験を活かした 教育内容	臨床で担当する機会の多い各疾患の病態、評価、基本的な治療計画からアプローチまでを実践を踏まえ講義する。				

授業科目	作業療法身体領域Ⅱ	科目担当者	岩本 凌
学年	2年	学期/時間数	後期 / 45時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	作業療法身体領域における代表的な疾患について、病態や障害像を理解し、評価から実施までの一連の流れと治療・指導・援助、リスク管理について授業・グループディスカッションを行い、理解を深めることを目的とする。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①身体障害を中心とした疾患の病態、障害像を理解し、説明することができる。 ②身体障害を中心とした疾患のリスクを理解できる。 ③各疾患における評価方法について理解し、実施することができる。 ④各疾患の症状と生活を捉え、介入や支援方法を考え、理解できる。 ⑤喀痰の吸引を実施することができる。		

授業計画	内 容		
第1回	身体領域に対するOTの考え方	第16回	呼吸器疾患：吸引（演習）
第2回	関節可動域/筋力/筋緊張異常の評価	第17回	代謝性疾患(DM)の概要
第3回	脳血管疾患の概要	第18回	代謝性疾患(DM)の評価およびOT
第4回	脳血管疾患の評価/目標設定	第19回	悪性腫瘍の概要
第5回	脳血管障害の急性期について	第20回	悪性腫瘍の評価
第6回	脳血管障害の回復期について	第21回	悪性腫瘍のOT①
第7回	脳血管障害の生活期について	第22回	悪性腫瘍のOT②
第8回	脳血管障害のOT	第23回	まとめ
第9回	骨・関節疾患の概要	第24回	
第10回	上肢骨折（代表的な骨折）の概要	第25回	
第11回	上肢骨折（代表的な骨折）のOT	第26回	
第12回	下肢骨折（代表的な骨折）の概要	第27回	
第13回	下肢骨折（代表的な骨折）のOT	第28回	
第14回	呼吸器疾患の概要	第29回	
第15回	呼吸器疾患の評価およびOT	第30回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）90%、小テストおよび課題10%		
準備学習	今まで学習してきた疾患の特性や作業療法評価や基礎作業学について復習しておきましょう。		
事後学習	各授業もしくはまとめ（第15回）で伝える重要ポイントを復習しておいてください。		
教科書	矢谷 玲子 監修：「標準作業療法学 身体機能作業療法学 第4版」医学書院 医療情報科学研究所 編：「病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版」メディックメディア		
参考書	その他専門書及び文献（適宜紹介）		
オフィスアワー	岩本 木曜日の12：10～13：00、職員室 メールアドレス：iwamoto@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	各教員が各々の専門領域（身体障害、高齢期障害、地域など）で十分な臨床経験を有している。		
実務経験を活かした 教育内容	各教員の臨床経験をもとに身体領域における作業療法の代表的な対象疾患を学習点とし、疾患の概要の理解と疾患別作業療法（評価から治療までの一連の過程）について講義する。		

授業科目	作業療法精神領域Ⅱ	科目担当者	後藤 一樹
学年	2年	学期/時間数	後期/30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	精神科作業療法の実践について学ぶ。作業療法精神領域Ⅰに引き続き、国家試験や臨床現場で関わることの多い疾患の作業療法を学習していく。また、精神科作業療法に求められる理論および実践や推論について、講義やグループワークを通じて理解を深めていく。これまで学んだ知識を基に評価、疾患別の作業療法の応用を学ぶ。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 疾患別の精神科作業療法を学び、クライアントの障害に応じた作業療法をイメージできる。 ② 模範的にクライアントに対して作業療法プログラムを立案することができる。 ③ 評価や情報収集をもとに模範的な作業療法の実践ができる。		

授業計画	内 容
第1回	疾患別作業療法：摂食障害における作業療法
第2回	疾患別作業療法：てんかんにおける作業療法
第3回	疾患別作業療法：小児期および青年期に通常発達する行動・情動の障害における作業療法①医学的知識
第4回	疾患別作業療法：小児期および青年期に通常発達する行動・情動の障害における作業療法②評価と作業療法の実際
第5回	精神科作業療法におけるリーズニング
第6回	認知行動療法について
第7回	SSTについて
第8回	模擬実習①症例提示
第9回	模擬実習②評価内容の検討
第10回	模擬実習③ICFの作成
第11回	模擬実習④全体像の把握
第12回	模擬実習⑤作業療法における対象とすべき課題の焦点化
第13回	模擬実習⑥プログラム立案
第14回	模擬実習⑦考察
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題 30% 定期試験(筆記) 70%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	山口芳文・他 編：「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学(第3版)」メジカルビュー社
参考書	
オフィスアワー	金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業療法士として精神科領域での勤務の経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	作業療法発達領域Ⅱ	科目担当者	岩下 範子・曾根川 達司 林 いずみ
学年	2年	学期/時間数	後期/30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>発達に障害を持つ対象者の特性、評価法、作業療法について講義、演習を行う。 スライド、VTR 等を使用して症例の評価、活動分析を行う。評価結果に基づいてアセスメントし治療目標を設定する。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>1) 代表的な小児疾患について、それぞれの発達や機能の特性が理解できる。 2) 代表的な小児の疾患について、必要な評価を学ぶ。 3) 代表的な小児の疾患について、状態像の分析、治療計画の立案を学ぶ。</p>		

授業計画	内 容
第 1 回	発達障害の作業療法評価 担当 (曾根川達司)
第 2 回	脳性麻痺児の作業療法評価 (基礎) 担当 (曾根川達司)
第 3 回	脳性麻痺児の作業療法評価 (応用) 担当 (曾根川達司)
第 4 回	脳性麻痺児の作業療法 (基礎) 担当 (曾根川達司)
第 5 回	脳性麻痺児の作業療法 (応用) 担当 (曾根川達司)
第 6 回	脳性麻痺児の作業療法 (実践) 担当 (曾根川達司)
第 7 回	重症心身障害児の作業療法 / 摂食障害の作業療法 担当 (岩下範子)
第 8 回	知的障害の作業療法 担当 (岩下範子)
第 9 回	小児疾患の作業療法 (二分脊椎症等) 担当 (岩下範子)
第 10 回	小児疾患の作業療法 (神経・筋疾患等) 担当 (岩下範子)
第 11 回	発達障害児の評価 (基礎) 担当 (林いずみ)
第 12 回	発達障害児の評価 (応用) 担当 (林いずみ)
第 13 回	発達障害児の作業療法 (課題分析、治療目標の設定) 担当 (林いずみ)
第 14 回	発達障害児の作業療法 (実践) 担当 (林いずみ)
第 15 回	発達障害児の治療の実際 (発達性読み書き障害等) 担当 (岩下範子)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記) 80%、小テスト・レポート 20%
準備学習	授業の予定に基づいて、教科書等を使った予習の実施
事後学習	授業後の各自記録や配布資料による復習の実施
教科書	長崎 重信 監修:「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学改訂第3版」メジカルビュー社
参考書	1年時使用テキスト 能登真一 他 著:「標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第4版」医学書院
オフィスアワー	講義終了後 講師控室 メールアドレス:kita-reha@tohaya.ac.jp (学院窓口)

授業科目	作業療法高齢期領域Ⅱ	科目担当者	高内 志保
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	認知症のある人に対する作業療法の目的を理解する。 認知症のある人に対する評価の目的と方法を学習する。 グループで事例検討を行い、認知症のある人に対する作業療法の実際を理解する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①認知症の症状を説明できる。 ②主な認知症の特徴を説明できる。 ③各評価の目的と方法について説明できる。 ④認知症のある人に対する支援や作業療法実践について具体例を挙げて説明できる。		

授業計画	内 容
第1回	認知症のある人に対する作業療法
第2回	認知症を取り巻く社会の歴史と背景
第3回	認知症の症状、治療
第4回	Alzheimer型認知症と作業療法
第5回	脳血管性認知症、Lewy小体型認知症と作業療法
第6回	前頭側頭型認知症、軽度認知障害と作業療法
第7回	認知症のある人の評価（情報収集、面接）
第8回	認知症のある人の評価（観察、検査・測定）
第9回	認知症のある人の評価（評価のまとめ）
第10回	認知機能障害、BPSDに対する作業療法 グループワーク
第11回	生活障害に対する作業療法
第12回	役割・余暇に対する作業療法と環境調整
第13回	事例検討 ディスカッション
第14回	事例検討 ディスカッション
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題・提出物 20%、定期試験（筆記） 80%
準備学習	教科書を読み、分からない言葉の意味を調べる。
事後学習	授業内容を復習して次の授業に参加してください。
教科書	守口恭子・谷川良博 著：「認知症のある人の生活と作業療法 第3版」三輪書店
参考書	岡庭 豊 編：「病気がみえる（vol. 7）脳・神経 第2版」メディックメディア 能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第4版」医学書院
オフィスアワー	水曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	高齢者をとりまく背景や高齢者の心身の特性、認知症の理解と支援など、高齢期領域での作業療法を実践するための知識や技術を講義する。

授業科目	作業療法治療学演習 I	科目担当者	宮尾 京介
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	解剖学や生理学などの専門基礎科目、概論や各種評価学、治療学などの専門科目といった、既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を復習する。また、国試ベースで求められる内容の知識を学習する。グループワークを交えて問題演習に取り組む。 適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な専門および基本知識を整理し、理解できる。 ② 国試ベースで求められる内容の知識を理解できる ③ 学んだ知識を活用して、基本的な作業療法の適用を理解できる。 ④ 問題演習に関して、知識を基に考えることができる。		

授業計画	内 容
第 1 回	作業療法治療学の基礎 (意識/せん妄) 演習
第 2 回	認知症 (症状と特徴) 演習
第 3 回	認知症 (評価) 演習
第 4 回	骨関節障害 (橈骨と尺骨の骨折) 演習
第 5 回	中枢神経障害 (パーキンソン病) 演習
第 6 回	中枢神経障害 (多発性硬化症) 演習
第 7 回	神経筋疾患 (筋ジストロフィー) 演習
第 8 回	呼吸障害 (特徴と生活指導) 演習
第 9 回	循環障害 (心不全) 演習
第 10 回	作業療法管理学 (職場管理) 演習
第 11 回	作業療法評価学 (ROM : 上肢) 演習
第 12 回	作業療法評価学 (ROM : 総合) 演習
第 13 回	作業療法評価学 (ADL) 演習
第 14 回	作業療法評価学 (Brs) 演習
第 15 回	まとめ 演習
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト 80%、課題 20%
準備学習	該当する科目の内容について、目を通しておきましょう。課題を提示された場合は講義までにしておきましょう。
事後学習	小テストを実施します。演習内容をしっかり復習しておきましょう。
教科書	各範囲に該当する科目で使用した教科書 (随時提示します)
参考書	随時紹介
オフィスアワー	宮尾 木曜日の 12 : 10 ~ 13 : 00、職員室 メールアドレス : miyao@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。

授業科目	作業療法治療学演習Ⅱ	科目担当者	上原 佳代
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	解剖学や生理学などの専門基礎科目、概論や各種評価学、治療学などの専門科目といった、既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を復習する。また、国試ベースで求められる内容の知識を学習する。グループワークを交えて問題演習に取り組む。 適宜小テストを実施し、知識の定着を図る。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 既に学習してきた内容に関して、作業療法の適用に必要な基本知識を整理し、理解できる。 ② 国試ベースで求められる内容の知識を理解できる ③ 学んだ知識を活用して、基本的な作業療法の適用を理解できる。 ④ 問題演習に関して、知識を基に考えることができる。		

授業計画	内 容
第1回	作業療法評価学 (MMT) 上肢 演習
第2回	作業療法評価学 (MMT) 下肢・体幹 演習
第3回	中枢神経系 (脳の構造) 脳画像 演習
第4回	中枢神経障害 (脳血管障害) 脳画像 演習
第5回	作業療法評価学 (摂食嚥下機能) 演習
第6回	地域作業療法学 (制度) 演習
第7回	地域作業療法学 (就労支援) 演習
第8回	地域作業療法学 (福祉用具) 演習
第9回	義肢装具学 (装具) 演習
第10回	神経筋疾患 (末梢神経損傷) 演習
第11回	その他の障害 (熱傷) 演習
第12回	義肢装具学 (義手) 演習
第13回	作業療法評価学 (高次脳機能) 演習
第14回	高次脳機能障害 (症状と徴候) 演習
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト 80%、課題 20%
準備学習	該当する科目の内容について、目を通しておきましょう。課題を提示された場合は講義までにしておきましょう。
事後学習	演習内容をしっかり復習しておきましょう。適宜テストを実施します。
教科書	各範囲に該当する科目で使用した教科書 (随時提示します)
参考書	随時紹介します。
オフィスアワー	火曜日の 12:10~13:00、職員室 メールアドレス: uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	国家試験を解くのに必要な知識の整理と理解を促します。

授業科目	義肢装具学演習	科目担当者	上原 佳代
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>スプリントの作成について、評価、作成、チェックアウトまでを演習する。 能動義手のチェックアウト及び操作方法を演習する。 作業療法士の視点から手の外科（ハンドセラピー）の評価及び装具療法について演習する。</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①装具作成の手順を理解し、作成からチェックアウトまでを実施できる。 ②義手のチェックアウトができる。 ③ハンドセラピーにおける評価を実施できる。 ④解剖学・運動学の基礎知識を基に作業療法士の視点でハンドセラピーの基本を理解できる。</p>		

授業計画	内 容
第1回	スプリントの製作 講義・演習
第2回	スプリントの製作 型紙作成（トレースの練習）
第3回	スプリントの製作 型紙作成、仮合わせ
第4回	スプリントの製作 熱可塑性樹脂の使い方、スプリント材の裁断
第5回	スプリントの製作 モールドィング
第6回	スプリントの製作 修正、仕上げ
第7回	スプリントのチェックアウト
第8回	能動義手の操作演習
第9回	義手のチェックアウト 講義
第10回	義手のチェックアウト 演習
第11回	義手のチェックアウト まとめ
第12回	ハンドセラピーと装具療法 講義
第13回	ハンドセラピーと装具療法 評価演習
第14回	ハンドセラピーと装具療法の実際 演習
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）80%、実技（スプリント製作）20%
準備学習	授業の進行に合わせて、前期「義肢装具学」の内容を復習しましょう。
事後学習	解剖・運動学・整形外科学等の基礎知識との関連を意識して、理解していきましょう。 テキストや講義資料の図を正しく把握することを心掛けましょう。
教科書	長崎 重信 監修：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 義肢装具学」メジカルビュー社
参考書	高橋 邦泰・芳賀 信彦 編：「整形外科学テキスト 改訂第5版」南江堂 中田 真由美・大山 峰生 著：「作業療法士のためのハンドセラピー入門第2版」三輪書店
オフィスアワー	火曜日の12:30～13:00、職員室 メールアドレス：uehara@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	ベッドサイドで実施する装具療法から義手のチェックアウトまで、一貫して作業療法士の役割を講義してゆく。

授業科目	基礎作業学技術 I	科目担当者	上原 佳代 ・ 岩本 凌
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 30 時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1 単位
授業の概要と方法	作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製や見学を行う。課題作製では計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。作品を完成させることがどのような影響を与えるかを学ぶ。見学では、作業を活動として用いる対象者について理解を深め、作業が与える影響を知る。各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①作業を活動として用いる対象者について知る。 ②代表的な活動についての手順が説明できる。 ③代表的な活動に必要な物品を準備・管理することができる。 ④代表的な作業の作業分析ができる。 ⑤代表的な作業の治療的活用方法を挙げることができる。 ⑥工程に順じた作品を作成することができる。		

授業計画	内 容	
第 1 回	スポーツ (車椅子テニス見学) 事前学習	岩本
第 2 回	スポーツ (車椅子テニス見学)	岩本
第 3 回	スポーツ (車椅子テニス見学)	岩本
第 4 回	スポーツ (車椅子テニス見学) 事後学習	岩本
第 5 回	スポーツ (パラスポーツ ボッチャ) 体験 グループ討議	上原
第 6 回	マステストラップ (演習) 作成 グループ討議	上原
第 7 回	作業の実際 (施設見学) 事前学習	岩本
第 8 回	作業の実際 (施設見学)	岩本
第 9 回	作業の実際 (施設見学)	岩本
第 10 回	作業の実際 (施設見学) 事後学習	岩本
第 11 回	革細工 (演習) カービング技法でコースターを作成	上原
第 12 回	革細工 (演習) カービング技法でコースターを作成	上原
第 13 回	革細工 (演習) 金具を用いた小物作成	上原
第 14 回	革細工 (演習) 金具を用いた小物作成	上原
第 15 回	革細工 (演習) 作業分析 グループ討議	上原
成績評価の方法 [評価項目と割合]	作品課題 30%、レポート 70%	
準備学習	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。	
事後学習	各授業もしくは各作業活動のまとめで伝える重要ポイントを復習しておいてください。	
教科書	浅沼 辰志 編集：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学第 3 版」メジカルビュー社 山根 寛 著：「ひとと作業・作業活動新版」三輪書店	
参考書	その他専門書及び文献 (適宜紹介)	
オフィスアワー	上原 火曜日の 12 : 10~13 : 00、職員室 メールアドレス : uehara@tohaya.ac.jp 岩本 木曜日の 12 : 10~13 : 00、職員室 メールアドレス : iwamoto@tohaya.ac.jp	
教員の実務経験	各教員が各々の専門領域 (身体障害・精神障害・高齢期障害など) での十分な臨床経験を有している。	
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。	

授業科目	基礎作業学技術Ⅱ	科目担当者	高内 志保
学年	1年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>作業療法の治療的介入手段として使われる代表的な活動に対し実際に課題作製を行う。</p> <p>課題作製においては計画から実施までグループで協力し合って主体的に行う。</p> <p>課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。</p> <p>各活動の最後には、グループで作業遂行にあたっての必要な要素を振り返り、治療的応用等について討議を行い、各自レポートにまとめる。</p> <p>介護予防における作業療法士の役割についてフィールド演習を通して学ぶ。</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①代表的な活動についての手順が説明できる。</p> <p>②代表的な活動についての必要な物品を準備・管理することができる。</p> <p>③代表的な作業の作業分析ができる。</p> <p>④代表的な作業の治療的活用を挙げることができる。</p> <p>⑤工程に順じた作品を作成することができる。</p> <p>⑥高齢者に触れ、介護予防の体操を経験する。</p>		

授業計画	内 容
第1回	絵手紙（演習）準備・実施
第2回	介護予防事業オリエンテーション
第3回	介護予防体操事前練習
第4回	介護予防事業参加
第5回	タイルモザイク（演習）図案企画
第6回	タイルモザイク（演習）タイルカット
第7回	タイルモザイク（演習）タイル貼り
第8回	タイルモザイク（演習）仕上げ グループ討議・まとめ
第9回	園芸（演習）計画
第10回	園芸（演習）実施
第11回	木工（演習）プランニングと製図
第12回	木工（演習）材料の選定
第13回	木工（演習）部品の加工
第14回	木工（演習）組み立て
第15回	木工（演習）仕上げと塗装 グループ討議・まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	作品課題 30%、レポート 70%
準備学習	予習として各活動に必要な材料・道具および工程を把握する。
事後学習	各授業もしくは作業活動のまとめ（第8.15回）で伝える重要ポイントを復習する。
教科書	浅沼 辰志 編集：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社
参考書	古川 宏 監：「作業活動実習マニュアル 第2版」医歯薬出版
オフィスアワー	水曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	基礎作業学技術Ⅲ	科目担当者	油田 あゆみ
学年	2年	学期/時間数	前期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	<p>「ブラバン」、「国家試験に出題される作業活動」、「陶芸」を実施する。</p> <p>「国家試験に出題される作業活動」では活動内容の選択及び計画・準備から実施までを、グループで主体的に行う。課題作製を通じて、作品を完成させることがひとにどのような影響を与えるのかを体験的に学ぶ。</p> <p>各活動の最後には、包括的作業分析を行い、治療的応用についてグループで討議を行い、各自レポートを作成する。</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動について、その基本的な準備や手順について説明できる。</p> <p>②①に伴う計画、実施、また作業分析ができる。</p> <p>③具体的な指導方法、応用方法を挙げることができる。</p> <p>④疾患との関連、治療手段としての活用方法を表現することができる。</p> <p>⑤工程に順じた作品を作製することができる。</p>		

授業計画	内 容
第1回	ブラバン（演習）活動の特性・作業工程
第2回	ブラバン（演習）実施・応用
第3回	マクラメ（演習）活動の特性・作業工程
第4回	マクラメ（演習）実施
第5回	マクラメ（演習）応用
第6回	陶芸（演習）活動の特性
第7回	陶芸（演習）作業工程
第8回	陶芸（演習）練り
第9回	陶芸（演習）電動ろくろ
第10回	陶芸（演習）玉作り・ひも作り
第11回	陶芸（演習）たたら作り
第12回	陶芸（演習）素焼き
第13回	陶芸（演習）釉掛け
第14回	陶芸（演習）本焼き
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	作品課題 20%、レポート 20%、定期試験（筆記）60%、
準備学習	基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておきましょう。
事後学習	各活動に必要な材料・道具および工程を把握し、作品作製を通して治療効果を理解しておきましょう。
教科書	浅沼 辰志 編集：「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社
参考書	古川 宏 監：「作業活動実習マニュアル 第2版」医歯薬出版
オフィスアワー	木曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	基礎作業学技術Ⅳ	科目担当者	宮尾 京介
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	実際の現場を見学し、作業療法の目的や効果、実施上の留意点などを学ぶ。その上で、実際に高齢者に対して作業療法提供までの一連の過程を経験する。また、これまでの基礎作業学技術Ⅰ～Ⅲで学んだ作業技術を振り返り、対象者の状態に適した目的のある作業療法を立案する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①作業療法の治療的介入手段として使用される作業活動を見学し、作業活動の目的や効果、留意点などを理解する。 ②対象者の状態を評価し、対象者の状態に適した作業活動を選定できる。 ③作業活動を提供するための準備ができる。 ④対象者に作業活動を提供することができる。 ⑤提供した作業活動を振り返り、課題の列挙と対策を考察することができる。		

授業計画	内 容
第1回	オリエンテーション
第2回	作業の実際（施設見学）
第3回	作業の実際（施設見学）
第4回	作業療法提供までの流れについて
第5回	対象者の評価（施設見学）
第6回	対象者の評価（施設見学）
第7回	レクリエーション 企画
第8回	レクリエーション 企画
第9回	レクリエーション リハーサル
第10回	レクリエーション リハーサル
第11回	レクリエーション 企画改善
第12回	レクリエーションの実施（施設見学）
第13回	レクリエーションの実施（施設見学）
第14回	振り返り
第15回	振り返りのまとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	レポート 100%
準備学習	基礎作業学理論で学んだ作業分析の基礎知識の復習をしておきましょう。
事後学習	各活動に必要な材料・道具および工程を把握し、作品作製を通して治療効果を理解しておきましょう。
教科書	浅沼 辰志 編集：「作業療法学 ゴールドマスター・テキスト 作業学第3版」メジカルビュー社
参考書	古川 宏 監：「作業活動実習マニュアル 第2版」医歯薬出版
オフィスアワー	宮尾 木曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：miyao@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	臨床で用いる作業活動を実践し、作業の治療的活用について理解する授業を行う。

授業科目	職業関連活動	科目担当者	後藤 一樹
学年	2年	学期/時間数	後期 / 15時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	職業の意義と職業リハビリテーションの実践について理解する。グループワークを通して作業療法における就労支援の実際について学び、就労支援での作業療法士の役割および機能について理解することができる。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 人が働くことの意義を理解できる。 ② 障害者雇用における社会資源と精度を理解できる。 ③ 職業リハビリテーションにおける関係機関との連携のあり方を理解できる。 ④ 職業リハビリテーションに必要な評価について理解できる。 ⑤ 事例を通して就労支援における作業療法士の役割および機能について理解できる。		

授業計画	内 容
第1回	ひとと職業：働く意味、障害者と職業
第2回	障害者の就労を支える法制度：障害者雇用促進法、障害者総合支援法
第3回	働くことへの作業療法士の関わり
第4回	職業評価
第5回	障害別就労支援の実際① 課題提示
第6回	障害別就労支援の実際② グループワーク
第7回	障害別就労支援の実際③ グループ発表
第8回	障害者就業・生活支援センターの障害者雇用支援について/まとめ
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	課題 30%、定期試験（筆記） 70%
準備学習	講義前に教科書の学習範囲を熟読しておくこと
事後学習	講義資料は講義回ごとにファイルにとじ、インデックスをつける等の工夫をすることで、講義の資料が後からでも把握できるように整理してください。授業後に講義資料および参考書を用いて復習してください。
教科書	中村俊彦・他 編著：「就労支援の作業療法 -基礎から臨床実践まで-」医歯薬出版株式会社 能登 真一・他 編：「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第4版」医学書院
参考書	日本作業療法士協会 監修：「作業療法学全書 改訂第3版 第12巻 職業関連活動」協同医書出版社
オフィスアワー	金曜日の12:10~13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	作業療法士として勤務経験を基に実践に即した講義を行う。

授業科目	生活環境学	科目担当者	油田 あゆみ
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	作業療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのか、どのように考えるのかを学ぶ。さらに、対象者の自立支援にあたって重要な位置づけになっている福祉用具と住環境整備に関する基礎的な知識と実践を学ぶ。授業は、生活環境学の概要や基本的な知識に関しては座学にて行い、福祉用具などは知識を深めるためにグループワークにて課題に沿って実際に体験し実践を身につける。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①福祉用具供給システムについて説明できる。 ②福祉用具のアセスメントについて説明できる。 ③主たる福祉用具について体験し、適用や選定ができる。 ④福祉用具種別に応じた支援の実際について説明できる。 ⑤住宅改修の基礎技術について説明できる。		

授業計画	内 容
第1回	福祉用具の定義と範囲
第2回	福祉用具の供給制度
第3回	福祉用具の導入、選定手順、アセスメント
第4回	福祉用具（演習：起居・床上動作関連）
第5回	福祉用具（演習：移乗関連）
第6回	福祉用具（演習：リフト、トランスファーボード、トランスファーシートの使用法）
第7回	福祉用具（演習：移動関連）
第8回	福祉用具（演習：杖・車椅子の計測と使用方法）
第9回	福祉用具（演習：食事・整容・更衣関連）
第10回	福祉用具（演習：排泄・入浴関連）
第11回	福祉用具（演習：コミュニケーション関連）
第12回	福祉用具の疾患別適応
第13回	住環境整備に関連する制度と基本的事項
第14回	住環境整備（疾患別ADL）
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）90%、課題10%
準備学習	今まで学んだリハビリテーションに関連する制度や疾患に関する知識を復習しておきましょう。
事後学習	講義終了時に理解できなかったところは質問を行いその都度解決しておきましょう。
教科書	伊藤 利之・他 編：「新版日常生活活動（ADL）－評価と支援の実際－第2版」医歯薬出版 山中 武彦・他 編：「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 福祉用具学 第2版」メジカルビュー社 医療情報科学研究所 編集：「公衆衛生がみえる 2024-2025」メディックメディア
参考書	佐伯 覚 編：「義肢装具学」医学書院
オフィスアワー	木曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	日常生活活動一つ一つの活動に対し、福祉用具との適応を必要な動作と関連付けながら考える講義を行う。 実際に福祉用具に触れ、また多くの福祉用具の情報を得る場とする。

授業科目	臨床見学実習	科目担当者	油田あゆみ・宮尾京介・岩本 凌 高内志保・上原佳代・後藤一樹
学年	1年	学期/時間数	後期 / 45時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	医療・福祉の現場で求められる様々な能力の中でも、対人交流技能は最も重要な能力と位置付けられるものである。この実習では、病院・施設における対象者への援助や作業療法の実際を見学することを通じて、対人援助職として必要なコミュニケーションスキルおよび基本的心得を習得する。 また、見学で学んだことを報告会で共有することによって、各々の作業療法についての理解を深めていく。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 施設における役割や機能を理解することができる。 ② 医療・福祉の現場における対象者の生活を知り、考察することができる。 ③ 対象者を中心とした作業療法の業務内容を理解することができる。 ④ 対人援助職として必要な基本的態度およびコミュニケーションスキルを身につけることができる。		

授業計画	内 容
	2026年 9月 14日(月)～9月18日(金) の計5日間 病院・施設での実習 (1日の実習時間については各病院・施設の規定に従う)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	実習評価、実習報告会、提出書類などを基に総合的に判断する。
準備学習	臨床実習指導の科目に準じて予習、復習をしておき、これまでの学習内容を理解しておく。
事後学習	報告会にむけた準備を行うこと
教科書	臨床見学実習録
参考書	
オフィスアワー	岩本 金曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス: iwamoto@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。

授業科目	地域作業療法実習	科目担当者	高内志保 油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹
学年	2年	学期/時間数	後期 / 45時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を、見学を通して経験することで対象者の状態や地域での生活支援を把握するとともに、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての作業療法士の役割について学ぶ。学内演習の作業療法評価学や作業療法治療学において得られた知識を、実際の現場で見学し、臨床実習に繋げ、問題解決能力を養うものである。実習終了後には報告会を行い、実習での成果を報告する。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①対象者とのコミュニケーションを経験する ②スタンダードプリコーションが実施できる ③チェックリストに記載している項目の見学ができる ④多職種連携（チーム連携）の見学若しくは経験をする ⑤作業療法計画の立案過程を見学し、臨床思考を養うことができる ⑥実施記録の意義や書類管理の重要性を理解する		

授業計画	内 容
	11月9日（月）～13日（金）のうち5日間を実習期間とする。 介護老人保健施設または医療機関の通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションにて実施する。
成績評価の方法 [評価項目と割合]	実習評価、提出書類の結果を総合的に判断する。
準備学習	臨床実習指導の科目に準じて予習、復習をしておくこと
事後学習	報告会にむけた準備を行うこと
教科書	地域作業療法実習録 その他、必要に応じて提示
参考書	
オフィスアワー	金曜日の12:10～13:00、職員室 メールアドレス：k-gotou@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。

授業科目	臨床実習	科目担当者	油田あゆみ 宮尾京介 岩本凌 上原佳代 後藤一樹 高内志保
学年	3年	学期/時間数	前期 / 900時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	単位数	20単位
授業の概要と方法	<p>作業療法士に必要な基本的態度、技術、知識を修得し、合わせて医療従事者としての豊かな人格を育成する。</p> <p>医療提供施設の他、介護保険施設、老人福祉施設、身体障害者福祉施設、児童福祉施設、指定障害福祉サービス事業所、指定障害者支援施設等において、臨床実習指導者の指導のもと実施する。</p> <p>積極的に治療および作業療法介入場面を見学・模倣・実施し、作業療法の臨床思考過程を学ぶ。</p>		
	<p>アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士となるために必要な技術（評価・治療）、知識を修得し、合わせて医療従事者としての基本的態度を身につける。 ・チームの一員として多職種連携の必要性を説明できる。 ・評価実習では、作業療法評価が見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できるようになり、全体像の把握・目標設定・作業療法プログラムの立案ができる。 ・総合臨床実習では、作業療法プログラムの見学・模倣を経て、指導者の監視下で実施できる。 		

授業計画	内 容
	<p>臨床実習前（OSCE/臨床技能試験） 令和8年4月3日（金）</p> <p>評価実習 令和8年4月6日（月）～5月2日（土）4週間（180時間）</p> <p>総合臨床実習1期 令和8年5月11日（月）～7月4日（土）8週間（360時間）</p> <p>総合臨床実習2期 令和8年7月13日（月）～9月5日（土）8週間（360時間）</p> <p>臨床実習後（OSCE） 令和8年9月7日（月）</p>
成績評価の方法 [評価項目と割合]	実習前後のOSCE、実習前の臨床技能試験、実習評価の結果から総合的に評価する。
準備学習	実習施設の概要や対象となる疾患、領域における主要となる評価など、学内での学習内容をもとに各実習で事前学習に取り組みましょう。また、事前学習した資料は実習中に確認できるように整理しましょう。
事後学習	実習終了後、感想や報告書（レジュメ）の作成、学内教員とのフィードバックなどを通じて、実習で成長・習得できた事、または課題となった事を振り返りましょう。
教科書	臨床実習録 1年次、2年次までの全ての科目で用いた教科書
参考書	1年次、2年次までの全ての科目で用いた参考書・配布資料
オフィスアワー	油田 木曜日の12:10～12:45、職員室 メールアドレス：yuda@tohaya.ac.jp 高内 水曜日の12:10～12:45、職員室 メールアドレス：takauchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	作業療法士
実務経験を活かした 教育内容	各教員の専門領域における知識と経験をもとに、臨床実習に必要となる知識・技能の修得に向けた学修支援を行う。また、臨床実習では臨床実習指導者と共に各担当教員が連携し、作業療法士に必要な基本的態度・技能・知識の修得を支援する。